



ぎょうてん
新野 暁天 ちゃん
10月10日生 ②・添田西

面白いおしゃべりに楽しい表情！いつも笑顔にしてくれる可愛いアイドルぎょうてんにみんな夢中！大好き♡



はるき
三根 悠暉 ちゃん
10月29日生 ②・町四

食いしん坊で泣き虫で甘えん坊のはるくん♡お誕生日おめでとう♡いっぱい食べて笑って大きくなってね♡だいすき♡！



こはく
中富 心珀 ちゃん
10月30日生 ③・野田

こはくちゃん♡おたんじょうびおめでとう！いっぱい食べて大きくなってね！



みみ
中富 心美 ちゃん
10月30日生 ④・野田

みみちゃん♡おたんじょうびおめでとう！これからもキラキラ笑顔のみみちゃんदैいてね。

未就学児のお子さん大募集！

- ①お子さんの写真 ②お子さんの氏名 ③名前の読み方
④誕生日 ⑤年齢 ⑥行政区 ⑦メッセージ(50文字以内)
⑧保護者の連絡先をEメールで送信ください

送信先 koho@town.soeda.fukuoka.jp

役場総務課広報・秘書係 (☎82-4000)

11月生まれの締め切りは、
10月15日(木)です。



地域子育て支援センター

10月の予定

- ★観劇会 おんぷらんと「こびとのサーカス」▷21日
★サークル「めだかつこ」(毎週火曜日)
▷13日/戸外遊び(給食) ▷20日/手芸くらぶ(給食)
▷27日/ハロウィンバッグ製作(給食)
★サークル「おんぷに抱っこ」(毎週金曜日)
▷9日/乗り物遊び ▷16日/親子健康教室・おっぱい相談・虹の会読み聞かせ ▷23日/運動遊び
▷30日/ハロウィン
★ベビーサークル「あっぷぷ」
▷14日 ▷28日/虹の会読み聞かせ
★マタニティサークル「ポコ・ア・ポコ」
▷8日

◀11月の予告▶ ▷10日/りんご狩り ▷18日/おんぷに抱っこマルシェ

※詳しくは「おんぷに抱っこ通信」をご確認ください。

添田町地域子育て支援センター (☎85-0888)



まちのホットNews

3年生最後の夏 最後まで粘り強く

添田中学校男子バドミントン部



↑報告に訪れた顧問の林先生、部員の皆さんと久保田町長

9月16日、添田中学校男子バドミントン部が県大会の結果報告に久保田町長を訪問しました。3年生最後の大会となる田川地区大会で優勝し、筑豊大会で3位となったバドミントン部。県大会では1回戦を突破し、2回戦では今大会2位となったチームを相手に最後まで粘り強く戦いましたが、0-3で惜しくも敗れました。「負けたくて楽しかった」と話す部員たち。この大会で引退となった3年生から新チームを引き継いだ、キャプテンで2年生の深見翔さんは「まず、次の大会での田川地区大会優勝を目標に、練習に励みます」と新たな決意を語ってくれました。3年生の部員の皆さんお疲れさまでした。先輩たちの思いを受け継いだ新チームのこれからの活躍が楽しみです。

模擬選挙で学ぶ 情報を判断する力

添田中学校「SNSの投稿を活用した模擬選挙」

9月16日、添田中学校3年生を対象に「SNSの投稿を活用した模擬選挙」が行われました。スマートフォンの普及により大量の情報に接する機会が増える中、情報を正しく読み解き、活用する「情報リテラシー」を高めることが重要視されています。この模擬選挙は情報を多角的に捉え、主体的に判断する力を身につけてほしいと田川青年会議所が実施。生徒たちはまずSNSの情報だけを参考に1回目の投票を行い、その後、候補者の討論会を聞いて再度投票しました。多くの生徒が投票先を変え、情報を一つの側面だけで判断する難しさや多角的に考えることの大切さを学びました。



↑投票には、実際の選挙で使っている投票箱と記載台が設置されました

歴まちコラム

～歴史と文化のふる里探訪～

問 役場商工観光振興課歴史文化財係 (☎82-1236)

病に向き合った先人たち 添田町の医療の歴史

「10・10」を横に倒すと、2本の「1」が肩、2つの「0」が目のように見えることから10月10日は「目の愛護デー」とされ、目の健康や大切さを呼びかける運動を行っています。今回は、健康にまつわる町の歴史をお伝えします。



↑加茂神社の敷地内にある宮城医師の銅像

添

田町では、かつて、英彦山に住む山伏たちが目の薬を作っていました。史料によると、山伏たちは6種類の生薬を粉末状にし、水とハチミツを加えて、じっくりと加熱し、錠剤のような形に練り固めていたようです。使用する時は、水で錠剤を溶かして、目にさしていたと考えられています。目薬以外にも、山伏たちはさまざまな薬を作っており、その代表的なものが11種類の生薬を調合した「不老圓」です。不老圓は、頭痛やめまいなどに効果がありました。山伏たちは、病人へ神仏の力を借りて病気が治ることを願う「加持祈禱」を行うとともに、薬による治療で病気を治していたようです。多くの人々を病氣

から救ったことは、山伏が人々の支持を得た一つの理由とも言えるかもしれません。

こ

のように、町内には古くから医療に携わる人々が多く存在しました。添田町史にも、昔から医療を営む家が多くあつたと書かれており、多くの医師が存在していたことが分かります。そのなかでも、地域の人々に慕われた一人が「宮城犬三医師」でしょう。

現

在でも、野田の加茂神社には聴診器を手に持つ宮城医師の銅像が大切に守り継がれています。今年の4月、野田行政区から明治時代の史料が町へ寄贈されましたが、そのなかには、宮城医師が国と福岡県から表彰を受けたときに、地域の

こ

ドは、地域に残る史料があつてこそ知ることが出来ます。地域に残る史料は、先人たちの暮らし、願い、そして地元への思いが刻まれたものです。一度失われれば、二度と取り戻すことはできません。ぜひ手に取って目を通し、地域の歴史を紐解くとともに適切に保管して、地域の記録を次世代へ確実に引き継いでいきましょう。

【文・西山紘二(学芸員(商工観光振興課歴史文化財係))】

文芸歳時記

【短歌 投稿】

裏路地の酒場の窓のこもれ灯に
背を染めし犬われに振り向く 独活山強実

飛行機は飛び立ったのかダイビング

沖縄好きの吾子は喜々とし 櫻木マサ子

コーヒーの香りにつられ一休み

秋の夜長に葉を扶む 佐藤 直

田園の草焼田畑の肥料

一片の通達に焼場の灰と化すや 柳瀬 一徳

十三夜少し寂しき影あれど

満月となり虚しきことも 西村 宗雪

訪なえば両手を握り涙ぐむ

「よかったよかった」に母の声を聴く 久保田克利

【俳句 投稿】

霧晴れて澄みたる空や豊前坊

伊勢村 稔

突然に空を焦がされて熱帯夜

寺本 芳寛

年寄りて心細かる夜長かな

柳瀬 満子

【川柳 投稿】

製造工程見学できる「めんべい工場」

原田祥二郎

駅前店やマメ料理が味わえる

原田 順子

●11月号に掲載する俳句・短歌・川柳を募集します

10月15日(木)までに役場総務課に連絡してください。

※投稿は1人一句まで。俳句・短歌・川柳の区分を書

いてください。

問 役場総務課広報・秘書係 (☎82-4000)